

災害時の振り替え輸送や鉄道施設の検査支援に関する協定を締結した福鉄の村田社長(中央)、えち鉄の豊北社長(左)、県コンクリート診断士会の山川会長＝27日、福井市のアオッサ

福鉄、えち鉄

災害時、振り替え輸送

福井―田原町間 協定を締結



福井鉄道とえちぜん鉄道は27日、大雪災害や事故などで福井市中心部の運転をどちらかが見合わせた場合、運行可能な他方の鉄道への振り替え輸送や代行バスでの輸送を行う相互協力協定を締結した。振り替え輸送では、運行不能区間を含む乗車券を持つ乗客は、別運賃を支払わずに他方の電車を利用して迂回できる。

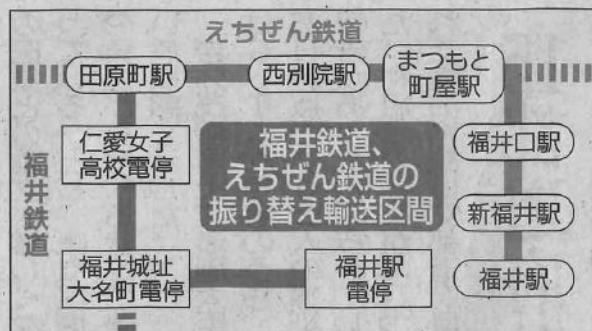
(野田勉)

診断士会とも修繕連携

両社は2018年2月の記録的な大雪を受け同年6月、除雪用資機材の融通などを盛り込んだ災害時の相互協力協定を結んだ。ただ運転見合わせ時には、それ

ぞれがバスなどによる代行輸送を行っていた。今回の協定締結で、災害時の一層の連携強化と利便性向上を図る。

振り替え輸送は、福鉄と



えち鉄の福井駅―田原町駅間で実施する。福鉄はJR福井駅西口側の福井駅停留場から福井駅前電車通り、通称フェニックス通りを路面電車として走行し、えち鉄はJR福井駅東口側の福井駅から福井口駅を経て田原町駅に至る。福井駅の場合は西口と東口で異なるものの、線路は田原町駅までの環状線のようになっている。協定では、この区間でどちらかに運行不能が発生した際は、乗車券があれば新たに振替乗車券は発行しない。両鉄道とも運行不能に

なった場合には、福鉄が可能な限り自社の代行バスを用意し、費用を折半する。またこの日は、両社と県コンクリート診断士会が、鉄道施設の検査・診断などの支援に関する協定も締結した。老朽化が進む鉄道の橋などの修繕方法や調査の必要性などについて、両社が同会から助言をもらう。締結式は福井市のアオッサで行われ、福鉄の村田治夫社長が「新型コロナウイルス感染拡大で厳しい環境だが、利便性を向上していくことがお客さまサービスや利用者増につながっていくと思う」とあいさつ。えち鉄の豊北景一社長も「福鉄との今回の協定でさらに安定した輸送の確保ができる」と期待を込めた。両社と協定締結した同会の山川博樹会長は「会の最も大きい目的が社会の安全面の維持管理に寄与することなので、地域貢献の意味でも非常に意味がある」と述べた。